

## 総選挙についての『日刊ゲンダイ』でのコメント

五十嵐 仁（法政大学名誉教授・法政大学大原社会問題研究所前教授）

〔以下のコメントは、この間の夕刊紙『日刊ゲンダイ』の記事でつかわれたものです。参考のために、アップさせていただきます。〕

「希望の党は、事実上『自民党小池派』ですよ。小池さんは今は安倍政権を批判し、対決するようなフリをしています。選挙が終われば状況によっては連携もあるとおわせている。安保法や改憲賛成だけでなく、規制緩和による経済成長など、自民党と共通する政策は多い。

有権者は『小池劇場』に惑わされることなく、政党の立ち位置や本質を見極める必要があります。疑似餌に引っかからないようにしなければなりません」(10月6日付)

「安倍首相はこの国の政治や行政を私物化した上に、野党の準備不足を突いた前例のない大義ゼロの解散でトンデモ候補の乱立を招いた。有権者の半数が総選挙に関心を持っていないところに、グチャグチャの選挙戦を展開されたら、嫌気がさして棄権する動きが増えかねない。それが一番心配です。そうなれば、安倍首相は二重三重に日本をぶっ壊すことになります」

「選挙は本来、政策の是非で投票先を判断するものですが、今回はさらに2つの要素をプラスする必要があります。信義を重んじ、信頼に足る政党であるかどうか。候補者については信念を貫く意志を持った人物かどうか。情けない話ですが、社会人としての常識をわきまえているかも見なければなりません。そうした検証をすることで、どの政党、どの候補者に投票すればいいかはおのずと浮かび上がってくるはずですよ」(10月10日付)

「予想通り自民大勝となれば、憲法違反といわれる大義なき解散を認めたと、これまでの約5年間の安倍政権の暴走政治を肯定したことになる。つまり、特定秘密保護法や安保法、共謀罪などの国会審議を無視した政治手法を認めたということです。自民党は消費税引き上げ後の使途を選挙争点にしているわけですが、それをOKというのは、どんなに不景気であろうと引

き上げて構わないとゴーサインを出したのに等しい。さらに言えば、トランプ大統領は11月に来日すると報じられていますが、その時、仮に安倍さんが首相であれば何を言い出すか分かりません。北朝鮮に対して『あらゆる選択肢』と言っているわけですから、それこそ米国と一緒に戦争を仕掛ける、とも言い出しかねないのです。日本は内政でも外交でも、とんでもないことになるかもしれない。国民にとっては地獄の扉が開けかけている、と言っているでしょう。」(10月14日付)

本日(15日)午後2時から、浦和駅東口での市民連合の街頭演説会で急ぎよ話をする事になりました。まだ、骨折した左腕は使えませんが、口は使えます。

10分ほど演説する予定です。お近くの方に顔を出していただければ幸いです。